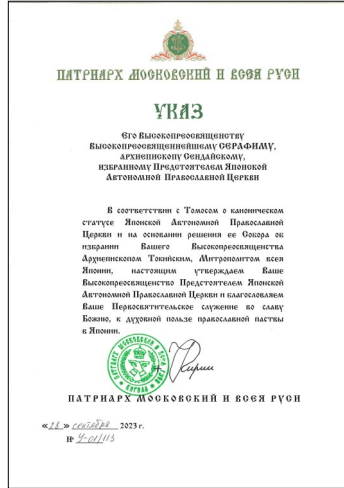


セラフィム府主教座下首座主教に着座



▲ ロシア正教会総主教座下より送られた首座主教の承認書

9月28日(木)に、日本ハリストス正教会全国公会の臨時公会が開催された。仙台よりダヴィド水口神父の他、代議員としてニコライ山田兄、イリヤ木村兄が出席。全員一致でセラフィム辻永昇大主教座下を全日本の首座主教に選立した。即日、ロシア正教会の総主教座下より承認書が送付された。その日より、セラフィム座下は「東京の大主教および日本の府主教」として記憶された。

臨時公会



仙台正教会 教会だより

2023年 11月号

〒980-0021 仙台市青葉区中央三丁目四二〇
 仙台ハリストス正教会
 TEL 022-251-2744
 FAX 022-241-3080
<http://www.sendai-orthodox.jp>
orthodox@hyper.ocn.ne.jp



▲ 9月28日(木)に開かれた臨時公会後の集合写真

セラフィム座下首座主教着座式および祝賀会

首座主教着座式

10月22日(日)に、東京の大主教および全日本の府主教セラフィム座下の着座式がニコライ堂において行われた。全国の神品が集まり、聖体礼儀が執り行われ、ロシア正教会渉外局長アントニイ府主教座下によって首座着座の祈りが捧げられた。

小聖入の途中において、総主教聖下の承認書が読み上げられ、「聖なる神」が歌われた直後に、アントニイ府主教よりパナギアなどが贈られ、高らかに「アクシオス(適任であるという意味)」が唱和された。聖体礼儀後に、マンティヤや権杖ダウニセルなどが進呈され、再び「アクシオス」が歌われた。



祝賀会

聖堂で記念写真を撮った後、如水会館へ移動。記念祝賀会が開かれた。会場の大きさの都合で参加人数が制限され、およそ百名の方々で、日本正教会の新しい門出を御祝いした。

余興として、仙台教会のハリサ土田姉とマトロナ土田姉の親子でのピアノ演奏が披露され、会を盛り上げた。





信徒懇親会に参加して

ウエラ山中由美

仙台教会からは水口神父ご夫妻、熊谷ご夫妻、永元母娘、太田姉、山中姉が参加

爽やかな秋晴れの10月8日(日)東北ブロック信徒懇親会が、盛岡正教会の担当で岩手県八幡平市の「八幡平ハイツ」を会場に開催されました。

一泊しての懇親会は、2019年仙台秋保温泉の懇親会以降コロナ禍により中断し、実に4年ぶりの開催であるため、皆久しぶりの再会を喜びました。単純硫黄泉の八幡平の湯につきり、宴会場では集合写真撮影後、他教会との懇親を深めるためのくじ引きで35名が6卓に分かれました。

長司祭マルコ小池宗務局長と管轄司祭のピーメン松島神父のご挨拶、乾杯の後、会食が始まり、各教会の神父様達に



よるユーモアあふれるスピーチと教会挨拶紹介が行われました。

またテーブル対抗クイズ大会は大いに盛り上がり、賞品として岩手県と秋田県大館の名産品などが用意されました。他教会の信者さんと交流できてとても良い時間を過ごせました。

翌朝9時半解散。各々八幡平山頂や盛岡観光を楽しみながら帰路につきました。来年は石巻正教会の担当となるそうです。



東北ブロック宣教会議



10月19日(木)、東日本主教区の東北ブロック宣教会委員が、一関正教会において開かれた。仙台からは水口神父とウエラ山中委員が参加した。連絡事項を確認したのち、先日開催された聖歌研究会、信徒懇親会を振り返りつつ、今後の在り方について熱心に話し合った。また開催予定の誦経奉仕者研修会の内容について意見を出し合った。しばらく休止していた宣教キャラバンについても、一関

管轄のいずれかの教会で行う方向で企画を練っていくことが確認された。その他、教区報や播かれた種、宣教献金のお願ひ、教区出版物などについても討議が行われた。

誦経奉仕者研修会

今年も東日本主教々区東北ブロックとして「誦経奉仕者研修会」を企画しました。左記日程により金成ハリストス正教会にて開催致します。今回は、前回の研修会を踏まえて、実践中心で行われます。参加者一人一人に合わせた個別指導も行い、より具体的な、より親身な研修会にしたいと思えます。

記

日時：11月3日(金 祝日) 13時～15時

場所：金成ハリストス正教会

参加費用：無料

金成正教会へのアクセス



東北自動車道若柳金成ICから車で5分
宮城県栗原市金成上町西裏60-1

中新田正教会だより

10月15日(日)、代式祈祷後に、聖歌譜の修正作業と教会正門両脇にカーブミラーの設置作業の奉仕がありました。若松勝美兄より、カーブミラー設置に必要なポール、金具等を献品頂き設置の奉仕も頂きました。車の出入の安全確認がより確実なものとなりました。



白河正教会だより

10月14日(土)、15日(日)に、水口神父が白河正教会を巡回し、奉神礼を行いました。聖体礼儀後の勉強会では、明治、大正時代の先人モイセイ浜野茂について学びました。

なお、11月3日(金)から5日(日)まで、文化財ウィークとして聖堂が一般公開されます。

十字を畫くこと

三講話の要約

長司祭ダヴィド水口優明

私たちは祈る時、自分に十字を畫く(正教会では「十字を切る」とはあまり言わない)。この動作は、すでに2世紀頃には行われていた。聖師父テルトリアンが次のように言っている。

我々は、いつも、歩く前、動く前、また出入りする時、服を着る時、靴をはく時、風呂に入る時、食卓につく時、ランプに火を灯す時、寝床でも、椅子の上でも、日常生活のすべての行動において、額にそのしるしをなぞる。』

そのしるしとは十字架をさしている。初代教会の信徒は、額に、恐らく右手の親指を使って小さく十字を畫いていたと推測されている。額」は、旧約聖書の昔から、何かを印す部位とされており、その人の人格や心を象徴する場所だった。今でも、私たちは、祭日の時などに、祝福された油を額に十字形に塗ってもらう。

3〜4世紀頃になると、いろいろな物に十字を畫いていた。エルサレムの聖キリールが次のように言っている。

のよう

大胆さをもって、指を使って、我々のしるし・十字架を、自分の額や物に畫きなさい。我々が食べるパンの上に、飲み物の上に、外出する時、帰宅する時、寝る前に、横たわりまた起きあがる時に、道の途上でも、じっとしている時でも。』

上半身全体に十字を畫くことが始まったのは、おそらく5〜6世紀頃である。しかし、その時代の指は、二本指を立てた形だった。この二本指は、単性論派に対してハリストスの神性・人性という二つの本性を強調するための形だった。ただし、この形はもつと古い起源があり、カタコンベの壁画や写本挿絵などには二本指を出して人物が見られる。これは相手に言葉や投げかけるといふジェスチャーと考えられる。



それからおそらく8世紀から12世紀ぐらいまでに、上半身に十字を畫く方法が普及したと言われている。ダマスコのペトルは次のように教えている。

聖師父らは、聖なるしるしの意味を我々に伝えた。右手は、主が無限なる力を持つこと、そして父の右に座しておられることを思い起こさせる。最初の上から下に下ろすのは、彼が天から地に降ったためであり、右から左へと移す手の動きは、主が敵を駆逐し、無敵の力をもって、左にいる悪魔に勝利することを象っている。』

今日のように三本指を合わせた形は、すでに9世紀頃の文献に出てくる。三本の指は三位一体を象り、残りの二本はハリストスの神性と人性を意味している。地方によって、左肩から右肩に移す形も行われていたが、今では、正教会では右肩を優先する形に統一された。

自分自身に十字を畫く時、十字架の目的を思いなさい。そして怒りや他のすべての激情を抑えなさい。自分自身に十字を畫く時、勇気をあなたの額(頭)に満たし、あなたの霊を自由に解放させなさい。(聖金口イオアン)』



11月聖名日 モレーベンのご案内

11月5日(日)聖体礼儀後

11月の聖名日モレーベンに該当する方々の一覧です。



▲ 聖大致命者アルテミイ



▲ 聖致命女マネファ

聖名日	聖名	氏名(敬称略)
11/2	アルテミイ(アンティオキアの聖大致命者)	針生晶朗
11/5	イヤコフ(聖使徒)	道家和夫、横山 渉、若松勝也
11/8	デイミトリイ(フェサロニカの大致命者)	小野嘉耶、小幡楠城
11/9	カペトリーナ(聖致命女)	早坂美穂
11/11	アナスタシヤ(ロマの聖致命女)	大槻和恵
11/12	ジノビヤ(キリキヤの聖致命女)	遠藤宏美
11/14	ダミアン(メソポタミアの奇蹟者廉施者)	岡 潔、遠藤正義
11/14	キリエナ(聖致命女)	小堀彩華
11/20	ラザリ(ガリラヤの克肖神父)	小野寺洋
11/24	ビクトル(ロマの聖致命者)	土田貴一郎
11/25	イオアン(コンスタンチノーブルの大主教金口)	高橋哲郎輔祭、勝又良樹
11/26	マネファ(カッパドキヤ・ケサリヤの聖致命女)	鈴木いく子
11/29	マトフェイ(聖使徒福音者)	針生勝通、横山毅、土田定克、佐々木隆

献金報告

(5.9.24～5.10.23)

○聖堂内献金 七万一千五百四十五円

○感謝献金

小池神父、中新田正教会、高清水正教会、千葉恵子(気仙沼)大寺宏子、鈴木留里子(白河)

○聖名祭感謝献金

佐藤幾久子

○敬老感謝献金

佐藤由枝、佐藤幾久子、平塚郁子・裕横山望

○埋葬献金

加藤雄(フイワ加藤敬子)

○パニヒダ献金

八文字積子(納骨)
木村富喜子
大立目謙直、岡多喜子
木村良治、笹川皓、熊谷道子、八文字積子
大立目潤子、山本理恵子、山田喜美雄、高橋嘉彦、永元道子
千葉温
飯塚順子、小原淑子、古田直子、岡崎雄俊、岡崎文子

※敬称略

執事会報告

令和5年10月1日(日)

午後12時30分～14時 3階会議室

一、報告事項

・臨時公会 9/28

水口神父、山田兄、木村兄出席。セラ
フイム座下、首座主教「東京の大主教及
び全日本の府主教」選立決議。

・婦人会による敬老訪問 9/13・15

12件訪問。玄関先もしくはお部屋でお
話やお祈り。御祝い品配布完了。

・婦人会函館正教会訪問 9/19・21

詳細は先月号の会報を参照。

・東北ブロック聖歌研修会 9/23

33人の参加。楽譜の読み方を学んだ。

・エレベーター基盤取替工事 9/13

工事は完了しておらず、後日、2回目
の作業が行われる予定。

・境界土留め工事完了

工事関係費用は一切カジマ負担。ブ

ロックやフェンスは譲渡。

・会計報告 一般/収益

教区分担金第一回目百万円納入。定額

献金42%、臨時献金31%。

ピアノ調律10/10予定。

二、協議事項

(1) 11/5 七五三モレーベン

例年のようにお菓子を用意する。

(2) 降誕祭について

祝賀会をどうするか検討した結果、12
月24日(日) 聖体礼儀後に「クリスマ
ス・ティー・パーティー」を行うこと
とした。酒類は出さず、食事もコロナ

禍を考慮して軽食とする。12時～

13時半くらいを予想。余興は可。企画

は方舟会、食事内容は婦人会が担当。

(3) 首座主教着座「祝賀会」出席について

10/22(日) 聖体礼儀への参拝は自由だ

が、祝賀会には、人数の制限があり、

希望参加者を調整する。御祝いの花を

仙台教会として出すかどうかは、他教

会との兼ね合いを見て決定する。

(4) 仙台教会としての首座主教着座祝賀

については、日にちも場所も規模も未

定だが、座下のスケジュールを見て開

催する方向で検討を続ける。

三、その他

リメイク着物の小物などを函館正教会
のバザーに献納した。ミニバザー開催案
もあつたが、今年には行わない。

消 息



・永眠

十月五日

フイワ 加川 敬子 姉 (90歳)

永遠の記憶【仙台正教会】

十月二十一日

マルファ 工藤 まさみ姉 (85歳)

永遠の記憶【中新田正教会】



11月行事・奉事予定



3日 東北ブロック誦経奉仕者研修会 於：金成

4日(土) 主日徹夜祷 第5調 (17時)

5日(日) 第22主日聖体礼儀 (10時)

書札 ガラティヤ 6:11・18

福音 ルカ 16:19・31

※ 七五三・聖名日モレーベン

定例執事会

11日(土) 主日徹夜祷 第6調 (17時)

12日(日) 第23主日聖体礼儀 (10時)

書札 エフエス 2:4・10

福音 ルカ 8:26・39

■ 月例パニヒダ

◇ ミニ講話 / 婦人会・方舟会

12日(日) 中新田正教会・代式祈禱 (10時)

18日(土) 徹夜祷はお休み 第7調

19日(日) 第24主日代式祈禱 (10時30分)

書札 エフエス 2:14・22

福音 ルカ 8:41・56

※ この日は代式祈禱となります。聖体礼儀は行われませんのでご注意ください。

18・19日 水口神父白河出張

18日(土) 18時 主日徹夜祷

19日(日) 10時 主日聖体礼儀

23日 東北ブロック聖歌研修会 於：盛岡

25日(土) 徹夜祷はお休み 第8調

26日(日) 第25主日代式祈禱 (10時30分)

書札 エフエス 4:1・6

福音 ルカ 10:25・37

※ この日は代式祈禱となります。聖体礼儀は行われませんのでご注意ください。

◆ 聖堂清掃奉仕の日

25・26日 水口神父中新田出張

25日(土) 16時 勉強会 / 17時 晩祷

26日(日) 10時 主日聖体礼儀

／月例パニヒダ

28日(火) フィリップの斎の始まり



11月の予定



【七五三・聖名祭感謝祈禱】 →5日

【月例パニヒダ】 →12日

【ミニ講話 / 婦人会・方舟会】 →12日

【聖歌隊練習日】 →毎日曜 (随時変更あり)

【聖堂清掃奉仕】 →26日

【教会学校】 →随時

【伝道会 18時】 8(水)、15(水)、22(水)、29(水)

1(水)は都合によりお休み

七五三感謝祈禱 七五三の年齢に関係なく ご参加ください。

日時: 11月5日(日)

主日聖体礼儀後



(聖名日モレーベンと併せて行われます)

教会よりフーズントを用意しています。ぜひご参禱ください。